

地名の歴史シリーズ第1弾

「富岡と牛岐」

阿南市役所は「富岡町」という地名の場所にあります。「富岡」という地名は江戸時代から使われた地名であり、それ以前は「牛岐（うしき）」という地名で呼ばれていました。

富岡地区は那賀川河道の度重なる変動により形成された肥沃な沖積平野の穀倉地帯に位置しています。考古資料からは、13世紀頃には現在に近い地形が出来上がり、町が形成されていたことが分かっています。そしてこの時代は各地に荘園が成立していく時期であり、富岡地区にも「牛枚荘（うしまきのしょう）」と呼ばれる荘園がありました。荘園の詳細い成立時期はわかっていませんが、建仁3年（1203）10月の「紀伊国司庁宣」『高野山文書宝簡集』に牛枚荘の名が出てくることから、この頃には成立していたことが分かります。

では、なぜ「牛岐（うしまき）」と名付けられたのでしょうか。由来は諸説ありますが、当時の富岡地区には多くの牛が飼いならされていた牧場があったといわれており、このことから、「牛岐」と名付けられたという説が有力です。そして14世紀の中頃からこの「牛岐（うしまき）」の「ま」が省略され、「牛岐（うしき）」と呼ばれるようになったようです。

そして時は流れ、慶長3年（1598）、徳島藩主蜂須賀家政が「牛岐」の地名を「富岡」という名前に改めました。家政は自身の居城がある島の名前を、縁起を担いで「徳のある島」「徳島」と命名しており、同様に阿波南部の最重要地点であった旧牛岐地区も「富を得る岡（岡は牛岐城跡の城山を指していると考えられる。）」「富岡」と命名したのです。

吉野川に次ぐ徳島第2の大河である那賀川の河口に位置する富岡地区は、中世から近世にかけて、牛岐城跡のある城山を中心に、県南部における政治・経済の中核都市として発達し、栄えていました。まさに岡（城山）を拠点に富を得ていた地

区であり、牛岐城跡の城山は「富岡」という名前の由来となったシンボリックな存在でもあるのです。

地名を知ることはその土地の歴史を知ることでもあります。何気なく見ている、そして書いている自身の住む土地の名前を調べてみると面白い発見があるかもしれませんね。

参考資料

- 「阿南市史第一巻」
- 1987・阿南市史編纂委員会「阿南市史第一巻」
- 1995・阿南市史編纂委員会



牛岐城跡の石垣



牛岐城があった城山



19世紀初頭に画かれた城山周辺の絵図

あなん文化紀行は
偶数月号に掲載します。